

1. 農地をより効率的かつ安全に除染するための技術を開発。
2. 除染した農地で生産された農産物の生産性や放射性セシウム濃度等を調査。
3. 今後、除染した農地の省力的な維持管理や利用のための技術開発に取り組む予定。

1. 農地除染のための技術開発

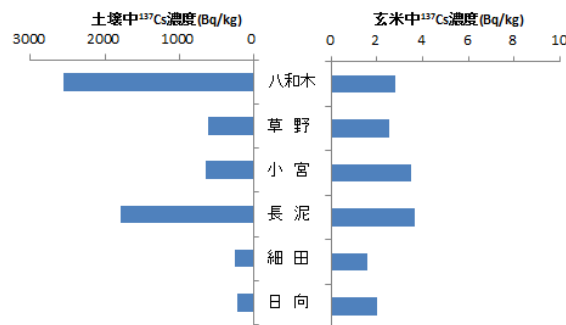
○ 平坦農地を効率的に除染するための表土削り取り機(写真上)や、作業者の被ばくを低減するためのシールドキャビン付きトラクタ(写真下)を開発。



○ これらの機械を活用し、雑草処理から除去土壌の袋詰めまで、農地除染に係る作業体系全体の実証試験を平成26年度に実施し、除染効果、作業者の被ばく量、作業効率等を調査。この結果を基に、農業機械をベースとした農地除染の体系化技術マニュアルを公表予定。

2. 除染後農地で生産された農産物等の調査

○ 平成25年度、飯舘村や川俣町の除染後水田において、稲収穫後の土壌と玄米の放射性セシウム濃度の調査を実施。その結果、玄米中の放射性セシウム濃度が極めて低いことや、玄米収量が事故前の平成22年産の玄米収量と遜色ないことを確認。



○ 平成26年度は、平成25年度の調査対象地に浪江町の除染後水田(写真)を加え、土壌・水・農産物の放射性セシウム濃度や、農産物の収量性・品質の調査を実施。



3. 除染後農地の維持管理や利用のための技術開発

○ 除染後農地の省力的維持管理技術の開発

農地の除染が完了してもすぐに営農が再開されるとは限らないことから、雑草繁茂や土壌流亡の抑制、地力回復に資する、カバークロップを活用した除染後農地の維持管理技術を開発。



カバークロップ



○ 農地周辺から農地への放射性セシウム流入を防止し、作物への影響を軽減する技術を開発（低吸収水稻品種の開発、様々なろ材や吸着材の活用）

ろ過・吸着資材

